

音楽

発表者 鈴木 茂

タイトルは『音楽』となっていますが、いわゆる"music"とか"musica"のような意味とは関係なく書きました。ここでは、気楽に音を楽しむ、という程度の意味で、書きました。

オーディオという観点は、この『気楽に』という部分に焦点が当たっていないと思います。私は、オーディオ歴40年を超えていますが、最近になって、気楽に、ということに焦点を当てていない自分に気付きました。そして、気が付いてみると、一般のオーディオマニアとは、常に正反対のことをしていました。

- 最低級の機器を使う
- シビアなチューニングをしない方向でシステムをつくる

昔から、オーディオの先生方は、『買って繋いで終りではない』として、設置や使いこなしのアドバイスをしてきました。常日頃から、そういう教義を叩き込まれてきたら、自然と、シビアな追い込みをするようになっていました。

ケーブルには気を使う、重量を気にする、電源の極性も気にする...

これがふつうの営みになってきたのに対して、気付いてみると、そんなことしても音は大して変わらない。このことに気付いたときに、マニアとは、すべて逆の行動をするようになっていました。

多自由度バスレフは、いまでも気軽に開発をすすめていますが、当初は、設計を追い込むことで、もっと特性を完璧に追い込めるもので、いずれはそうしていかなければならない、と考えていました。しかし、結局は、追い込んで部屋で音は全く変わるので、多少の差は気にしない、むしろ、それよりも、聴く音楽に気を使い、上記の『気楽に』を重視するほうが重要だと思い始めました。気付いてみると、上記のように、チューニングせずに最低級の機器を使うことで、よりいっそう音楽を楽しめるようになったと感じています。

ということで、"Being simple is the best."を重視し、できるだけ安価・単純で、かつ不満足を感じないことを心掛けると、"music"への向き合い方が変わりました。

ということで、本日紹介するのは、小型フルレンジ+UP4D ツィータのシステムです。これはいままで何度も紹介してきましたが、こういう考え方を改めて認識したので、単純+安価、ということで、広い会場で楽しもうと思います。

UP4D ツィータは、使いこなしがほとんど必要ありません。低域カットのコンデンサを直列につなぎます。コンデンサの容量値が変わると音は変わりますが、そんな違いは気にならない。長岡派は、効能率フルレンジのバックロードホーンに、効能率ホーンツィータを加え、測定や聴感を駆使し、ツィータそのものや低域カットのコンデンサの値のみならず、コンデンサのメーカーや型番を決め、正相・逆相を決め、バッフル面から何ミリ後退させるなど位置を微調整し、ときにはアッテネータを使うなど、試行錯誤してきました。これは、調整を趣味とするのだと考えれば正しく、合理性を考慮すると違和感しかありません。そうして追い込んだシステムを聴くには、聴取位置はピンポイントで定まり、首を動かすこともできません。これでは、最初に書いたような、『音楽』とは云い難い。

私のシステムは、こうした呪縛が一切ありません。ぽんと繋いで純粹に音楽を聴くだけ。システムには、カネをかけず、時間もかけない。工作は、純粹に工作として楽しみ、結果には期待しない。

システムには技術的詳細を書かなくても見たとおりで、コストも見たとおりです。ただし、本当にこんなに気軽にいいのか、ちょっとした実験を試みようかと思えます。レーベルも演奏者も違うピアノの録音を同じ曲の同じ部分で聴き比べ、さて、違いは判別可能かな？もちろんしっかり聴けば判別可能ですが、そこまでしないと判別できないのだったら、もっと差の小さなオーディオ機器の違いとはいったい何なんだろう？そういう結論になるかどうかは分かりませんが、お遊びということで、お付き合いください。